

日仏会館共催シンポジウム

「海洋学における日仏協力 60 年の歴史」

第 1 部：「海洋学における日仏交流史」

第 2 部：「日仏海洋学会創立 60 周年を記念して」

日 時 : 2021 年 10 月 20 日(水)

第 1 部：13 時 00 分～15 時 50 分、第 2 部：16 時 00 分～17 時 20 分 ※日本時間

場 所 : オンライン (Zoom)

同時通訳 : あり (日本語・フランス語)

参加費 : 無料

申込方法 : 日仏会館・フランス国立日本研究所のホームページからお申し込み下さい

https://www.mfj.gr.jp/agenda/2021/10/20/oceanographie/index_ja.php

主催：日仏海洋学会、仏日海洋学会、日仏会館・フランス国立日本研究所

共催：(公財)日仏会館

後援：文部科学省、フランス大使館科学技術部、国立研究開発法人海洋研究開発機構、(公社)日本水産学会、

(一社)水産海洋学会、日本海洋学会、『国連海洋科学10年』日本国内委員会

■趣旨

日本とフランスの海洋科学・水産学分野における日仏交流に積極的に関わってきた日仏海洋学会は、1960年に創立され、2020年に60周年を迎えました。この節目に、今までの日仏間においてどのような交流が行われたかを振り返るとともに、将来の海洋学・水産学分野における交流を展望したいと考えました。

第一部では、海洋学における日仏の交流史を振り返ります。戦後の海洋科学における日仏交流の嚆矢は、1958年フランスの深海探査艇（バチスカーフと呼ばれる）のFNRS-3号が来日し、日本人科学者佐々木忠義東京水産大学教授がともに乗船し、潜航に成功したことです。これを契機に日仏海洋学会は1960年に創立され、活動が始まりました。1960年代中頃に、フランスにおけるカキの大量斃死に際して、日仏海洋学会会員今井丈夫東北大学教授らが三陸のカキ稚貝輸出のための検疫などについて取り組みました。その結果、日本のマガキ稚貝がフランスのカキ養殖の危機を救いました。このお返しとして、2011年3月11日の大津波の被害にあった三陸のカキ養殖業者に対して、すぐにフランスの研究者やカキ養殖業者から援助の手が差し伸べられました。1974年7月に日本政府とフランス

政府は、日仏科学技術協定を締結し、その下で日仏海洋開発専門部会が発足しました。約 2 年ごとに部会を日仏両政府は交代で開催し、現在も日仏間の海洋科学・水産学分野の研究の促進を図ってきています。そこで、この部会の議事録をもとに、日仏間の海洋学分野の交流について振り返りたいと思います。さらに、日仏政府間では、海洋についての対話が始まり、2019 年 9 月 20 日に第一回日仏海洋対話がヌメアで開催されました。仏日海洋学会会員のイブ・エノック氏らの尽力で、海洋研究開発機構とフランス海洋開発研究所間の覚え書きに基づいて、ニューカレドニア周辺の海山研究を行うことが決まりました。このほかに、日仏・仏日海洋学会は、日仏それぞれの知恵と技術を結集し、海洋の持続的な開発を実現しようという「自然と文化」プロジェクトを準備しています。第一部ではこれらのことについて振り返るとともに、将来の協力関係についても議論します。

第二部では、第一部で総括した海洋学における日仏交流に対する日仏海洋学会の貢献を振り返ることを目的としています。日仏海洋学会の 60 年に亘る活動に対して寄せられた、関係する学術団体からのメッセージの紹介と、日仏間の海洋学分野での協力を貢献された方々への感謝を述べたいと思います。

本来は、2020年10月にシンポジウム開催の予定でしたが、コロナ禍のもと日仏間の人の移動が制限されたことから、2021年に順延しました。このような状況で、フランス側研究者も参加できるシンポジウムを開催できる体制が日仏会館においても整ってきたため、インターネットを用いて60周年＋1年ですが、本シンポジウムを開催することにしました。

■プログラム

司会進行:小松輝久(日仏海洋学会会長)

講演時間	講演タイトル	所属	講演者
13:00~13:10	シンポジウム開催によせて	日仏会館・フランス国立 日本研究所所長	ベルナール・トマン
	会長挨拶	日仏海洋学会会長 仏日海洋学会会長 仏日海洋学会名誉会長	小松輝久 パトリック・プローゼ ユベール=ジャン・セッカルディ
第1部 「海洋学における日仏交流史」			
13:10~13:40	バチスカーフ FNRS-3 はなぜ日本に来たのか? 海洋学分野における日仏協力のはじまり	仏日海洋学会名誉会長 日仏海洋学会会長	ユベール=ジャン・セッカルディ 小松輝久
13:40~14:10	水産学分野における日仏交流:フランスにおけるカキ大量斃死と三陸産カキ稚貝の輸出	日仏海洋学会	小池康之
14:10~14:40	日仏海洋開発専門部会の発足とその後	文部科学省	戸谷 玄
14:40~15:10	海洋環境・研究に関する日仏対話:ニューカレドニアでの海山調査	仏日海洋学会副会長	イブ・エノック
15:10~15:40	自然と文化プロジェクト:日仏間の知識とノウハウの交換-持続可能な開発の五つの柱と五感を中心に	仏日海洋学会会長	パトリック・プローゼ
15:40~15:55	総合討論	司会:田中祐志(日仏海洋学会副会長)	
15:55~16:05	休憩		
第2部 「日仏海洋学会創立 60 周年を記念して」			
16:05~16:25	1960年日仏海洋学会の発足と日仏海洋学発展への貢献	日仏海洋学会会長	小松輝久

16:25~16:45	学術団体からの祝辞	在日フランス大使館 科学技術参事官 ディディエ・マルティエドシュ様 (以下代読) 国立研究開発法人海洋研究開発機構理事長 松永是様、日本海洋学会会長 神田穰太様、一般社団法人水産海洋学会会長 木村伸吾様、公益社団法人日本水産学会会長 金子豊二様	
16:45~16:55	仏日海洋学会からの祝辞および記念品贈呈	仏日海洋学会副会長	イブ・エノック
16:55~17:05	日仏間海洋学交流貢献者の表彰	(表彰者) ユベール＝ジャン・セツカルディ先生、小池康之先生、パトリック・プローゼ先生、伊藤朋子様、キャサリン・マリオジョルス先生、佐々木良様、イブ・エノック先生	
17:05~17:15	2023年10月開催(予定)ノルマンディー Caen で開催される第19回仏日海洋学シンポジウムについてのご案内	カーン・ノルマンディー大学	ジャン・クロード・ドーヴァン
17:15~17:20	閉会の辞	日仏海洋学会副会長	高柳和史

■プログラムの概要

シンポジウム第1部のテーマは、「海洋学における日仏交流史」とし、フランス海軍の深海探査艇『バチスカーフ FNRS-3 号』と日仏海洋学会の関わり、日仏の水産分野の交流など、日仏-仏日海洋学会や日本政府とフランス政府の間で進められた海洋分野での過去および現在、将来の研究協力を紹介します。第2部のテーマは、「日仏海洋学会創立60周年を記念して」とし、日仏海洋学会の発足や日仏海洋学発展への貢献などの他、2023年10月下旬から11月上旬にカーン・ノルマンディー大学で開催予定の第19回日仏海洋学シンポジウムを紹介します。

■司会者・発表者紹介

小松輝久博士 (Teruhisa KOMATSU)

日仏海洋学会会長、公益社団法人日本水産資源保護協会技術顧問。京都大学農学部、同大学院農学研究科を終了し、1990年博士（農学）を取得しました。京都大学農学部助手を経て、東京大学海洋研究所助手に転じ、1997年同助教授に昇任しました。その間に、1992年から1993年までフランス政府給費留学生として、ニースソフィアアンティポリス大学理学部沿岸海洋生態研究室で、地中海に侵入した熱帯海藻イチイヅタの生態の研究に従事しました。横浜商科大学商学部教授の後、2020年から公益社団法人日本水産資源保護協会技術顧問に就任し、現在に至って

ます。2012年から日仏海洋学会会長を務めています。専門は、藻場の生態・環境の計測と生息場マッピング。2016年にフランス国家功労勲章オフィシエを受章しました。

田中祐志博士 (Yuji TANAKA)

東京海洋大学海洋資源環境学部長、日仏海洋学会副会長。京都大学農学部卒業後、同大学院農学研究科修士課程修了。1985年に北海道庁に入庁し稚内水産試験場に勤務、1988年近畿大学農学部助手に転じ、1992年から同講師、1998年から東京水産大学水産学部助教授、2003年からは改組により東京海洋大学准教授を務め、2013年から同教授に昇任しました。2018年から東京海洋大学海洋資源環境学部長に就任するとともに、2018年に日仏海洋学会賞を受賞しました。専門は、魚卵仔稚魚・動物プランクトンの個体の行動と空間分布に関する研究です。

Prof. Bernard THOMANN (ベルナール・トマン)

日仏会館フランス日本研究所所長であり、雑誌「エビス」の編集者。1997年社会科学高等研究院で歴史学の博士号を取得。論文タイトル:「日本の労使関係システムの変化:制度的・イデオロギー的問題」。2015年9月から国立東洋言語文化研究所教授。

Prof. Hubert-Jean CECCALDI (ユベール=ジャン・セッカルディ)

日仏海洋学会名誉会長。最初はマルセイユ大学理学部で講師を務め、その後、Ecole Pratique des Hautes Etudesの研究部長兼研究所長を務め、海洋学部門を指導しました。海洋生物の生理学、プランクトン学、沿岸開発を専門とし、水産養殖や海洋生物学の分野でフランスや海外の若手研究者の論文を数十本指導しました。1984年にフランスで日仏海洋学会を設立し、会長に就任した後は、日本の専門家を招いてフランスと日本

の海洋科学に関するシンポジウムを数多く開催しました。東京の日仏会館の館長（1988-1992 年）。レジオン・ドヌール勲章、国家功労勲章シュバリエ、教育功労章コマンドゥール。勲三等旭日中綬章を受章しました。

小池康之博士 (Yasuyuki KOIKE)

日仏海洋学会幹事。東京水産大学卒業後、修士課程を修了しました。アワビ類など水産資源生物の生態研究に従事し、フランス政府給費留学生として、1973 年にフランスのブレストにあったフランス国立海洋開発センターブルターニュ海洋センター(CNEXO-COB)に派遣され、1976 年までアワビの種苗生産の指導にあたりました。1976 年に東京水産大学の教員・研究者として日本に帰国した後も、日仏海洋学会において幹事、副会長として、1983 年にモンペリエで開催された第 1 回日仏海洋学シンポジウム以来、毎回の日仏海洋学シンポジウムに関係し、またフランス人留学生の面倒を見るなど研究面だけでなく日仏間の海洋水産分野の交流に貢献しています。この貢献により、2018 年 1 月 22 日付で、フランス政府国家功労勲章オフィシエを受章しました。

戸谷 玄博士 (Gen TOTANI)

2020 年 7 月 1 日から文部科学省研究開発局海洋地球課深海地球探査企画官に着任され、日仏海洋開発専門部会を担当されています。

Dr. Yves HENOCQUE (イブ・エノック)

日仏海洋学会副会長。1977 年に海洋生態学の博士号を取得した後、ブルターニュ地方の島で、小規模漁業に関連した養殖と底生生物の再生産の分野でキャリアをスタートさせました。その後、1981 年に日本に渡り、最初は日仏会館の연구원として、その後、フランス大使館の生命科学担当科

学アタッシュとして活動しました。1987年にフランスに戻り、IFREMERで、地中海の沿岸環境についての経験を積んだ後、海と沿岸のオーシャンガバナンスと統合管理に目を向けました。2013年10月からIFREMERのアジア太平洋地域の特派員として東京に駐在し、JAMSTEC（海洋研究開発機構）とOPRF（海洋政策研究財団）で研究を行いました。IFREMERを退職し、現在、フランス財団の海岸専門家委員会「環境プログラム」の委員長を務めています。

Prof. Patrick PROUZET (パトリック・プローゼ)

仏日海洋学会長。1978年、ブレスト大学で生物海洋学の博士号を取得。2005年にHDR (Habilitation to Supervise Research)を取得。1976年にCNEXOに入り、1984年にIfremer、1987年から2000年まではINRA (National Institute for Agricultural Research)の水生生態学ユニット、2006年まではIfremerのアキテーヌ水産研究所の所長を務めました。その後、2006年から2010年までIfremerのDEMOSTEMプログラム (Ecosystemic Approach to Integrated Fisheries Resource Management) のディレクターを務め、2013年に退官するまではIfremerの科学理事会のメンバーであり、2013年から2017年まではIfremerの名誉研究ディレクターを務めました。専門は、ビスケー湾における回遊魚資源（主に回遊性のサケ科魚類とウナギ）と小型浮魚の生態、開発、管理に関する研究です。近年では、フランスの公的な漁業組織（漁業・養殖業国家委員会と淡水漁業国家委員会）との緊密な協力関係のもと、自然と文化のつながりを含めた生態系アプローチの実施に焦点を当てています。フランス国家海事功労者勲章騎士を受章。

Prof. Jean-Claude DAUVIN (ジャン・クロード・ドーヴァン)

Université de Caen Normandie 名誉教授、仏日海洋学会会計幹事。Caen大学で動物生物学の修士号を取得し、1976年にDEAを取得しました。1979年にパリ第6大学で海洋学と生物学の学位論文を提出した後、1984年にパリ第6大学で自然科学の国家博士を取得しました。

1986年から1987年にかけて、ケベック州のラバル大学とモントリオールのケベック大学でポスドクを務めました。1981年から1990年までCNRSの研究者、1991年から国立自然史博物館教授、1997年からリール第1大学教授、2010年からCaen Basse-Normandie大学の教授に就任。2017年に退職し、アゴン・クータンビルに本部を置く「Association pour une pêche à pied respectueuse de la ressource (APP2R)」の科学顧問を務めています。

高柳和史博士 (Kazufumi TAKAYANAGI)

三洋テクノマリン株式会社常務執行役員、首席技師長、日仏海洋学会副会長。カナダ留学後、水産庁水産研究所研究員。フランス政府給費留学生としてナントにあるIFREMERに留学。瀬戸内海区水産研究所長を務めて水産庁を退職し、現在に至ります。専門は、海洋化学です。

以上